

令和6年度小松市立日末小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応 ・1か月に1回以上児童理解の会を開き、全職員で児童の様子についての情報交換を行い共通理解を図る。 ・児童の実態に応じた「いじめアンケート」を作成し、学期に1回実施する。 ・いじめアンケートの実施に合わせて、学級担任が児童の面談を行う。	・月1回の児童理解の会を開催し、全職員で児童の情報共有ができた。普段からも気になる事案などがあつたときはすぐに情報共有し、チームで対応することができた。 ・1学期のいじめアンケートでは、重大事案につながるものは見られなかった。アンケート後の面談の中で、児童の思いや困りごとなどを聞くことができ、児童一人一人の理解をより深めることができた。 ・今後アンケート、面談を継続していく。 ・小中連携の取り組みとして、SNSの使い方について指導していく。	
特別活動	学級目標を軸にしたよりよい学級・学校づくり ・自分たちの目指す姿を学級目標として掲げ、目指す姿に近づいているかを毎学期末に各学級で振り返る。 ・各行事の際にはそのねらいを児童と共有する。そのうえで、自分たちの学級目標にある姿に近づくための具体的な行動目標やその行事の中でできることを学級で話し合い、実践し、行事の後に検証する。 ・年間を通してたてわり活動を行い、学年をこえた関わりを通して、学年に応じた児童の役割の自覚を促す。	・学級目標振り返りシートを活用するなどし、全ての学級で1学期間の学級目標の振り返りを行うことができた。また2学期に頑張ることについても考えることができ、よりよい学級にしようという意識を高めることができた。 ・運動会では全校の目標（スローガン）に向けた、各クラスでめあてを立てた際に、学級目標を意識してたてることができた。2学期に予定している全校行事、たてわり遠足・文化祭も同様に取り組むことで、よりよい学校にしようという意識を高める。 ・運動会では、たてわり班で行動することが多く、高学年を中心に活動することができたため、たてわり遠足や文化祭でもメンバーシップを高める。	
道徳教育	道徳教育の向上 ・道徳推進教師による校内研修を行い、児童が物事を多角的・多面的に考え、人間理解や他者理解を深め、さらに、自分の考えを深められるような発問や問い返しを吟味し、授業で実践する。 ・年に一回以上、道徳の公開授業を実施し、家庭との道徳教育の共有をはかる。	・夏期休業中に道徳推進教師による校内研修を行い、視点を意識した授業実践交流を行っていく。 ・4月に行われた授業参観では、2学級道徳の公開授業を実施することができた。11月、2月に予定している授業参観では、他の学級も道徳を公開する。また、学級通信で、道徳の授業の様子を発信したり、授業で書いたワークシートやノートを家庭に持ち帰るなど、家庭との道徳教育の共有を図ることができたため、2学期も継続していく。	
特別支援教育	一人一人を大切にされた教育の推進 ・学級担任や教科担任は、ユニバーサルデザイン（UD）を意識した授業づくりや学級づくりを行う。 ・児童理解の会や特別支援校内委員会を定期的に開催して、専門相談員等の専門機関との連携を図りながら、生活や学習上の困難を少しでも改善できるように取り組む。	・UDを意識した具体物の操作や学習用端末の活用を行っている。 ・月1回の児童理解の会では、普段の授業や運動会で支援ができるよう共通理解や情報交換を行った。気になる児童の保護者と面談することができた。 ・2学期は専門相談員派遣を要請し、より適切な支援が講じられるよう教えていただく予定である。	
読書教育	読書の質と量の向上につながる読書活動の推進 ・個人が記録ファイルを持ち、年間の目標冊数のめあてをもとに自分で学期ごとの目標冊数を決める。個人の目標冊数の達成率が80%以上となるようにする。 ・各教科の学習の中で、教科書に掲載されている本や関連図書の並行読書を推進し、読書の質の向上を図る。	・1学期、個人の明確な目標をもたせることができなかったため、二学期初めに、年間の目標を個人でたて、その目標を達成するよう声掛けをしていく。 ・「お話宅配便」や図書ボランティアによる「お話会」を行うことで、児童の本への興味の幅を広げることができた。また、教科書掲載されている本を「おすすめの本」として紹介する読書教育のワークシートを作成、取り組みを行い、読書の質の向上に繋げることができたため、2学期も継続していく。	
保健健康教育	心身ともに健康に学校生活を送ることができる児童の育成 ・学校保健委員会のテーマに取り上げ、親子で心の健康増進に取り組めるよう働きかける。 ・年3回程度、心の健康アップ週間を設け心の健康を保つための方法を知り、身につけられるようにする。 ・ほげんだよりや掲示でアサーション、ストレス対処法など心の健康についての情報を発信する。 ・運動する楽しさを知ってもらう目的と体力の増進を図るためスポチャレに取り組む。その中の「8の字とび」で、標準記録を達成できるようにする。	・学校保健委員会のテーマに心の健康を取り上げ、講師にもテーマに沿った講演をしていただく予定である。 ・心の健康アップ週間で、1日の振り返りや心の健康を保つための取組を行い、日常の小さな幸せに気づくことができた。親子の会話のきっかけになったりとよい機会になった。 ・2学期以降もほげんだよりや掲示、保健指導で心の健康についての情報を発信していきたい。 ・1学期は運動会や水泳があり、なかなかスポチャレに取り組むことができなかったため、2学期からは体育館の掲示板を利用しながら、記録更新を目指して取り組んでいく。	
GIGAスクール構想	学習用端末の活用推進 ・授業、帯タイム等で、学年に応じた学習用端末活用スキルを身に付けさせる。 ・校内研修等で、タブレット端末の活用について共有する。 ・学期ごとにメディアスキルの定着状況を確認する。	・学年ごとにスキルや教科に合ったアプリ等を学習に活用することで個々の思考の深まりや、協働学習の広がりにつながることができた。 ・学年の成果物をプリントアウトして掲示することで、他学年の児童に披露する機会ができた。 ・職員会議に併せて、授業実践交流を行った。また、週末に自主的なミニ研修を行うことで、教員のスキルアップにつながった。 ・児童のスキルアップのための実践が不十分なので、2学期以降に取り組みを増やす。	
家庭・地域社会との連携	郷土を愛する心の育成 ・さつまいも・イチゴ・大根・米の栽培を通して、地域の方々との交流を大切にし、地域に根付いた体験的な学びを展開する。 ・地域の農業や人を調べ、発信する学習活動を通して地域や郷土に親しみ大切にする心を育てる。	・体験的な学びは計画的に行われ、地域の方にはお世話になっている。社会科でもビニルハウス見学などの交流があった。2学期には、これらの学びを地域の方に向けて発信する機会を設けたい。（11月の文化祭の予定）	

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・上の学年が良い手本になっていて、それが日末小学校の良い伝統となっているので、縦割り活動をこれからも大切にしてほしい。 ・小人数の強みである一人一人が主役になれる環境で、子ども達は自信をもって大勢の前でも話せている。 ・コロナ禍が過ぎて様々な行事ができていて充実している。不登校気味の児童に対しても配慮しながら、子ども達にとって楽しい学校であってほしい。
---------	---